

2006年8月24日

平成18年12月期 中間決算説明会

株式会社メディビックグループ
(証券コード2369 東証マザーズ)

<目次>

1 会社概要

- P04 ■会社概要
- P05 ■グループ事業戦略
- P06 ■メディビックグループ

2 第7期(2006年12月期)中間決算報告

- P08 ■2006年12月期 これまでの主なニュース
- P09 ■売上高/経常利益の推移(連結)
- P10 ■2006年度中間期業績
- P11 ■2006年度中間期業績(セグメント別)
- P12 ■2006年度中間期売上高(セグメント別 前期比較)

3 事業別進捗と今後の見通し

I. バイオマーカー創薬支援事業

- P15 ■バイオマーカー創薬支援事業について
- P16 ■PGx支援の流れ

- P17 ■当社GLP PGxプロジェクトのトータルソリューションの提供モデル
- P18 ■検体バンキング
- P19 ■MediBicの検体マネジメントの特徴
- P20 ■PGxソリューションネットワークの確立
- P21 ■PGxソリューションに向けた遺伝子解析ソフトの開発・販売
- P22 ■米国のPGxビジネスモデル

II. 創薬事業

- P24 ■創薬事業の進捗
- P25 ■創薬事業～グルフォスファミドの優位性
- P26 ■創薬事業～今後の展開

III. 投資・投資育成事業

- P28 ■投資・投資育成事業について
- P29 ■投資・投資育成事業の進捗
- P31 ■投資・投資育成事業～今後の展開

4 終わりに

- P34 ■下期以降の予定
- P35 ■中期経営計画(2006-2008年)

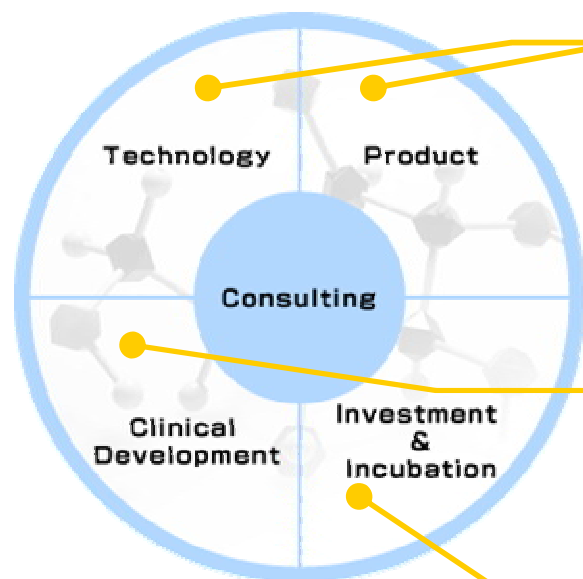
1. 会社概要

1-1. 会社概要

(2006年8月24日現在)

会社名	株式会社メディビックグループ
本社	東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル8F
設立	2000年2月17日
代表者	橋本康弘(易周)
資本金	14億3,940万円
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ (証券コード:2369)
社員数(連結)	42名 (常勤役員含む)
子会社	(株)メディビック (持株比率 100%) ※7月3日に(株)メディビックグループより新設分割で設立 (株)メディビックファーマ (持株比率 100%) (株)メディビック・アライアンス (持株比率 100%) Anexus Pharmaceuticals, Inc. (持株比率 68%)
事業内容	バイオマーカー創薬支援事業 【(株)メディビック】 創薬事業 【(株)メディビックファーマ】 投資・投資育成事業 【(株)メディビック・アライアンス】

1-2. グループ事業戦略



バイオマーカー創薬支援事業

テーラーメイド創薬®を目指し、国内・海外の最先端情報をビジネスにいち早く取り入れた創薬支援（バイオマーカー活用を通じた創薬支援）

創薬事業

テーラーメイド医療を目指した創薬

投資・投資育成事業

グローバルな最先端技術情報と評価能力を活かした投資・投資育成

1-3. メディビックグループ

2006年7月より純粹持株会社
へ移行

組織体制の再編により
経営強化へ

(株)メディビックグループ

↳◆上海事務所(中国)

↳◇アネクサス・ファーマシューティカルズ・インク(米国)

- ・2006年7月(株)メディビックから商号変更を行う
- ・同時に会社分割により子会社(株)メディビックを新設

(株)メディビック

↳◆関西ラボ

バイオマーカー創薬支援事業

(株)メディビックファーマ

創薬事業

(株)メディビック

・アライアンス

投資・投資育成事業

2. 第7期(2006年12月期)中間決算報告

2-1. 2006年12月期 これまでの主なニュース

[メディビックグループ]

- 中期経営計画を発表
- 持株会社に移行

[バイオマーカー創薬支援事業]

- GLP-PGxプロジェクト支援の開始
- GLP バンキング施設の稼働開始
- 解析技術バイオベンチャーと新たに提携
- 解析技術ソフトの販売拡大

[創薬事業]

- 共同開発先のTHLD社※が、米国での第Ⅲ相臨床試験の進捗を公開。IDMC(独立データモニタリング委員会)によって、安全性に問題が認められず臨床試験を試験終了まで継続することを推奨される。

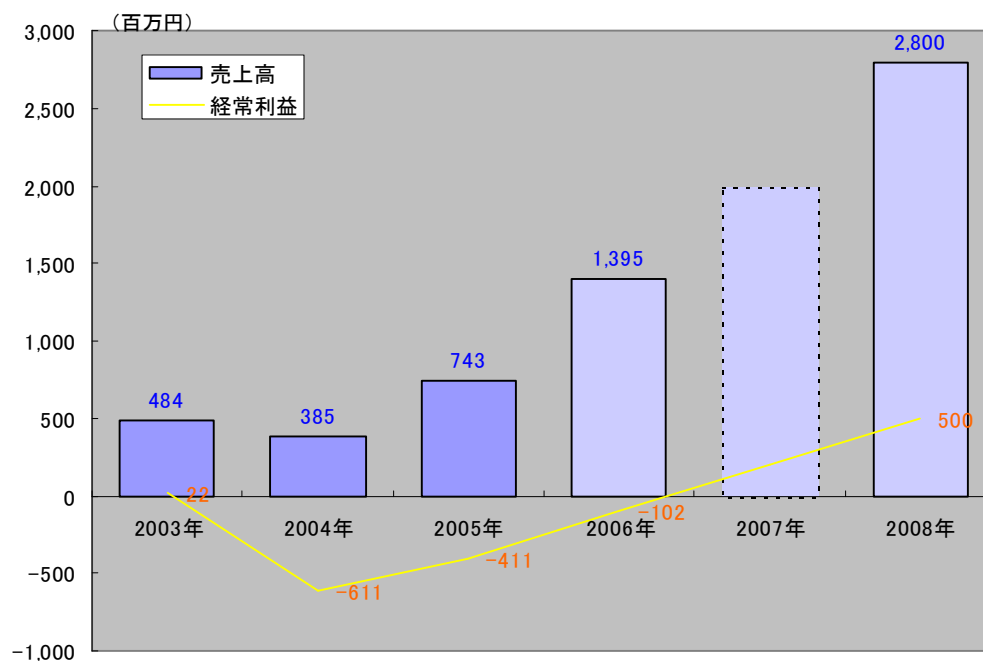
[投資事業]

- 投資先 2社の上場決定

※THLD社=Threshold Pharmaceuticals,Inc(アメリカ)

2-2. 売上高／経常利益の推移(連結)

売上高・経常利益(連結) 2003年12月期-2008年12月期



※2006年～2008年は予測(ただし、2007年は未公表)

2003年のみ単体決算

2004年を底に業績は回復基調

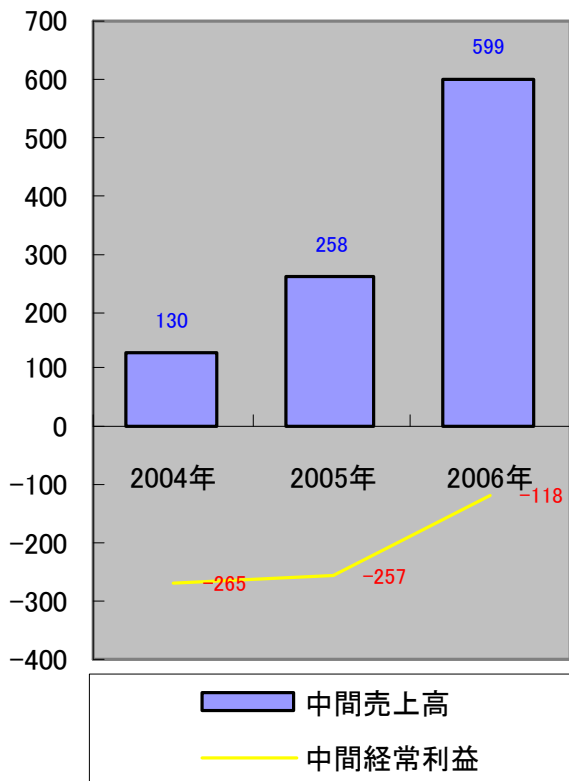
2005年度に掲げた施策の実現で、売上が倍進し、経常損失も良化。

2006年度以降も最終損益の大幅な改善に向けて早期黒字化を目指している。

2-3. 2006年度 中間期業績

中間期(連結)の売上・経常利益

(百万円) - 2004年12月期～2006年12月期 -



(単位:百万円)

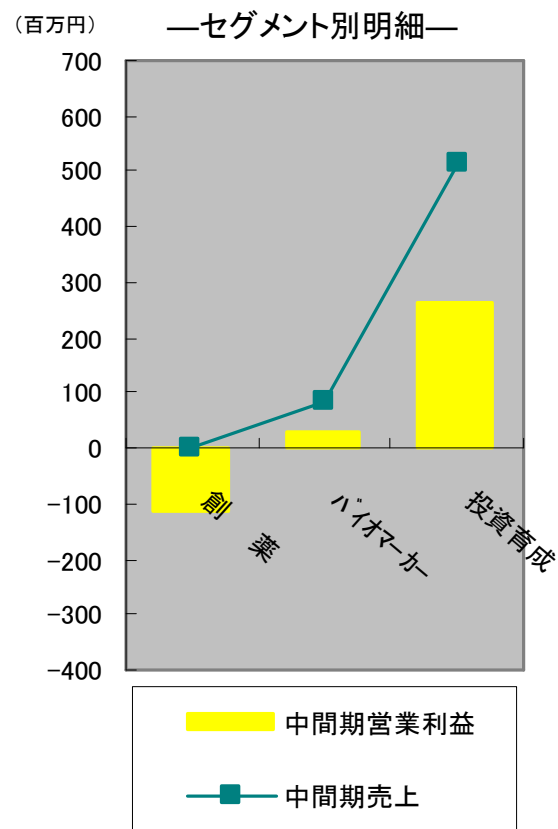
	2004年 中間期	2005年 中間期	2006年 中間期
売上高	130	258	599
経常利益	△265	△257	△118
純利益	△266	△257	△242

2006年度中間期は業績上方修正で

対予測比 売上20%、経常利益50%増

2-4. 2006年度 中間期業績（セグメント別）

2006年中間期営業利益



創薬事業

中間期売上	—
中間期営業費用	116
中間期営業利益	<u>△116</u>

(単位は全て百万円)

バイオマーカー創薬支援事業

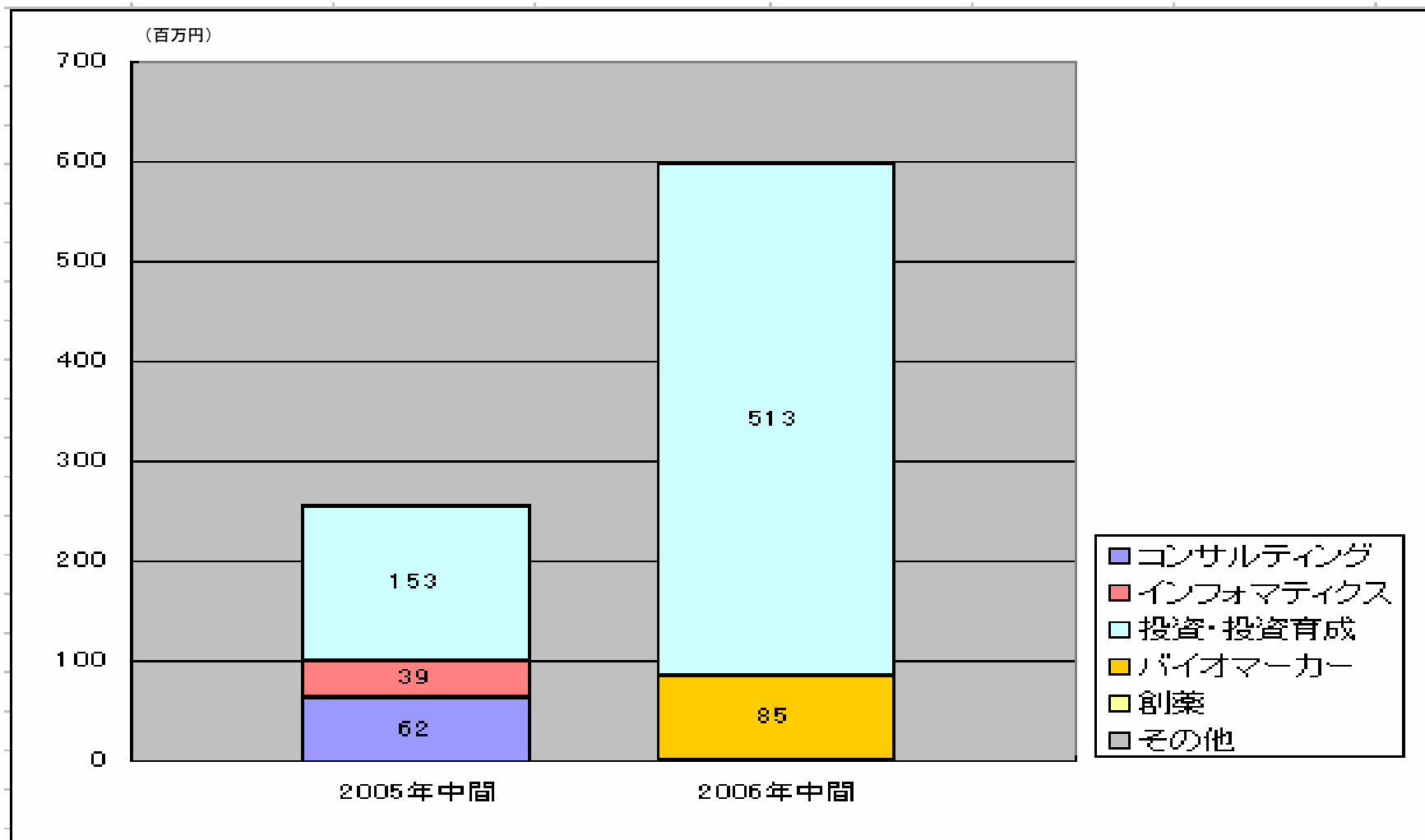
中間期売上	85
中間期営業費用	54
中間期営業利益	<u>31</u>

投資・投資育成事業

中間期売上	513
中間期営業費用	250
中間期営業利益	<u>263</u>

当社グループでは、それぞれの事業のシナジーによって、グループ全体として黒字体質化することを目指している。

2-5. 2006年中間期売上高（セグメント別 前期比較）



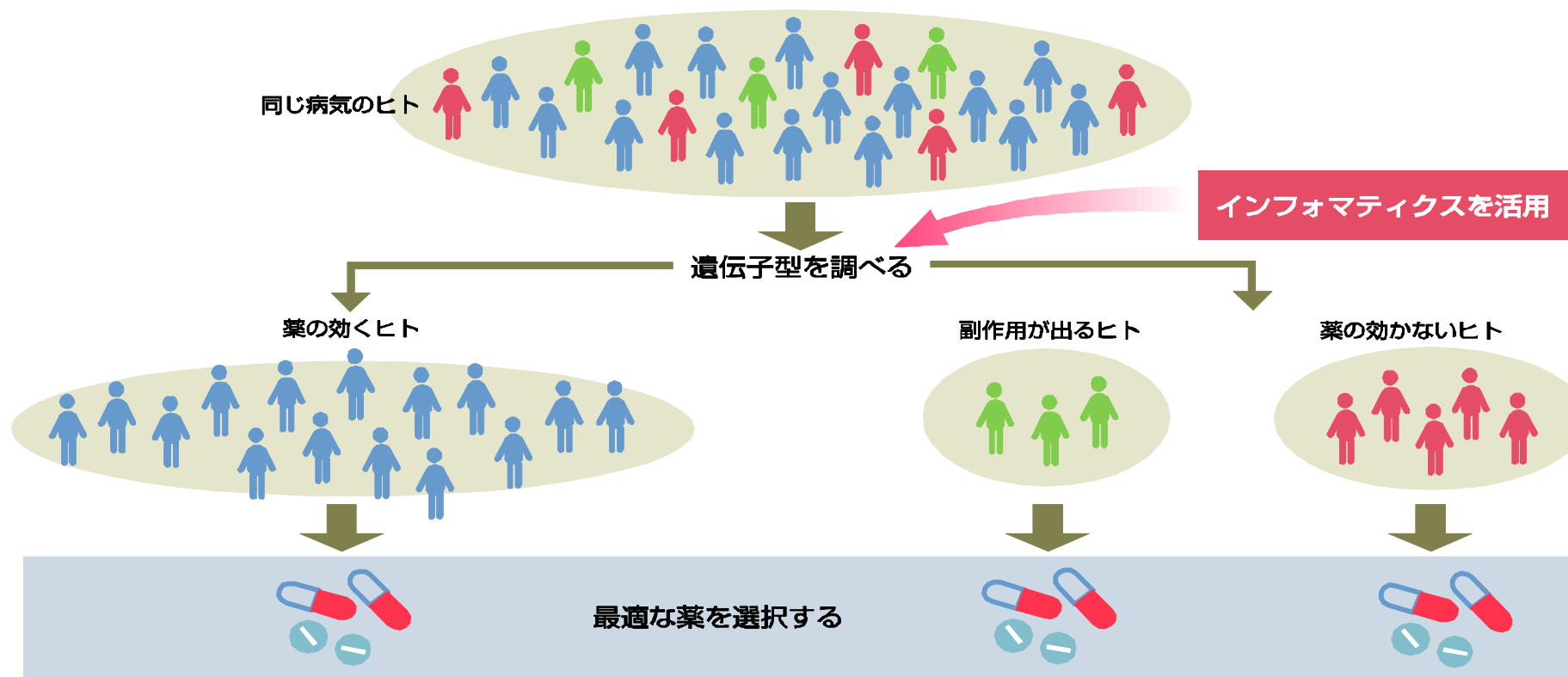
3. 事業別進捗と今後の見通し

I . バイオマーカー創薬支援事業

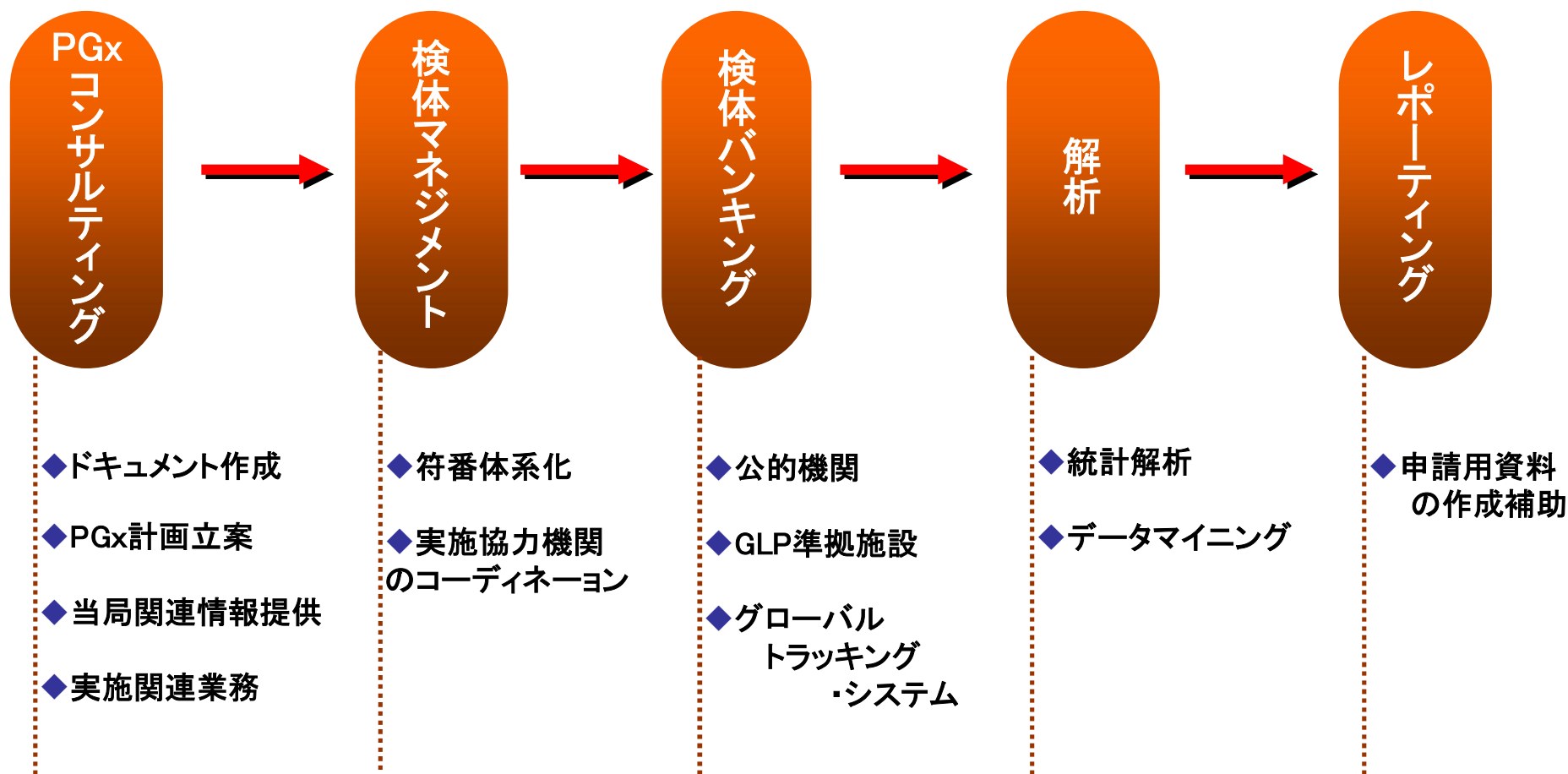
3- I -1. バイオマーカー創薬支援事業について

遺伝子に加えて たんぱく質解析、
メタボローム解析、画像解析などの
バイオマーカーを活用できる体制を整えた

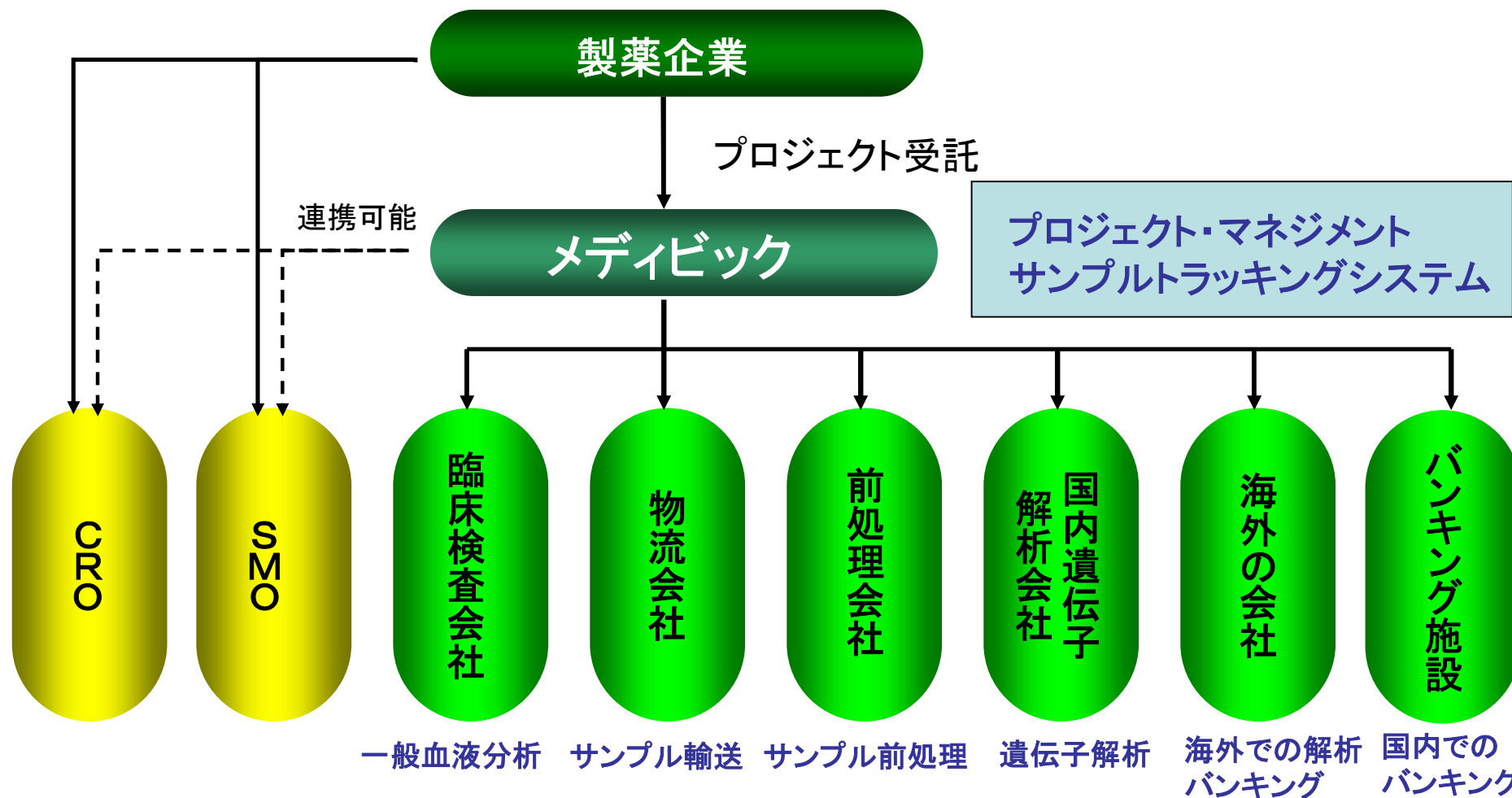
バイオマーカー探索支援のために
GLPに準拠する各プロセスを確立



3- I -2. PGx支援の流れ



3- I -3. 当社 GLP PGxプロジェクトのトータルソリューションの提供モデル



3- I -4. 検体バンキング

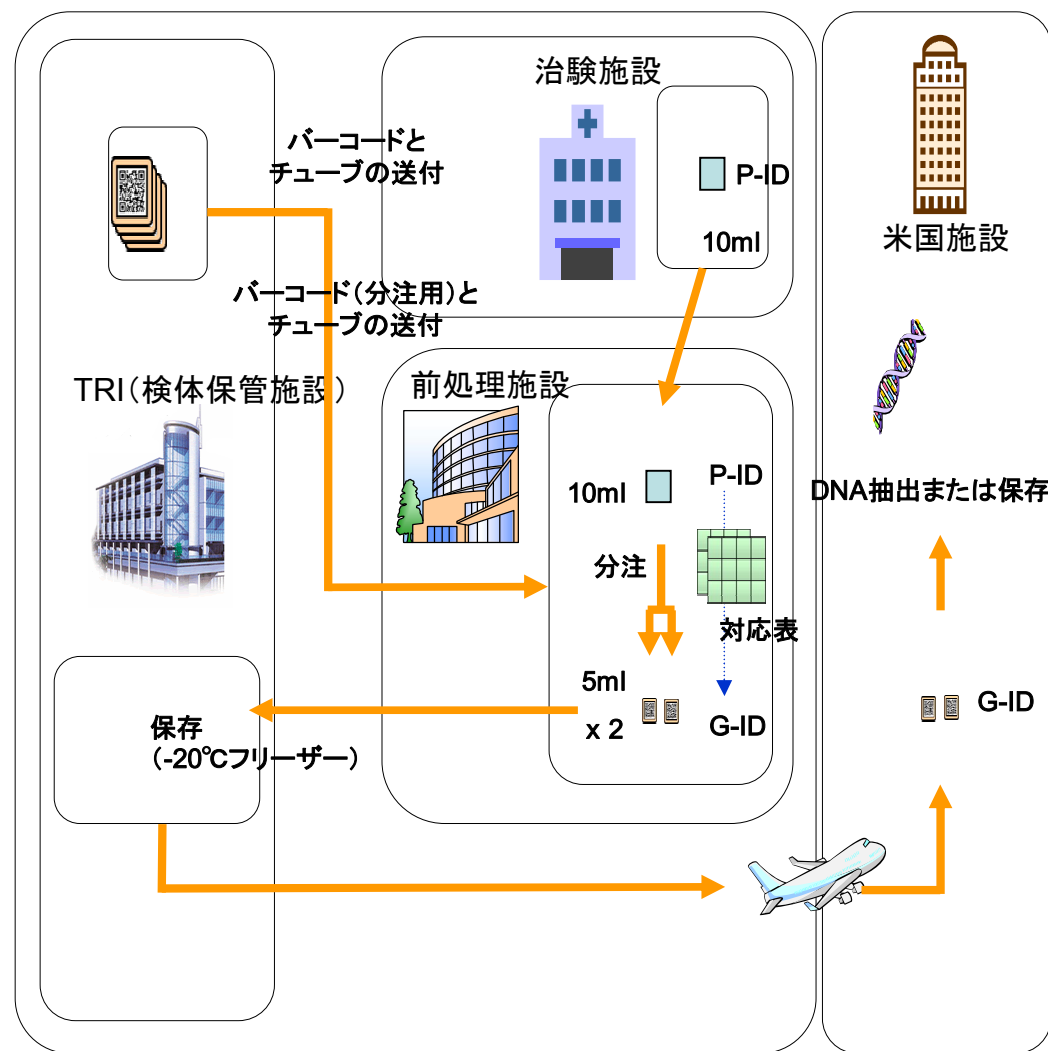
- 国内初の公的機関を利用したバンキング
- 医薬品開発の規則 GLPに準拠した組織
SOP完備しての検体管理
- 最新かつ嚴重設備による情報セキュリティ・警備セキュリティ
- 24時間の有人監視で迅速な非常時対応



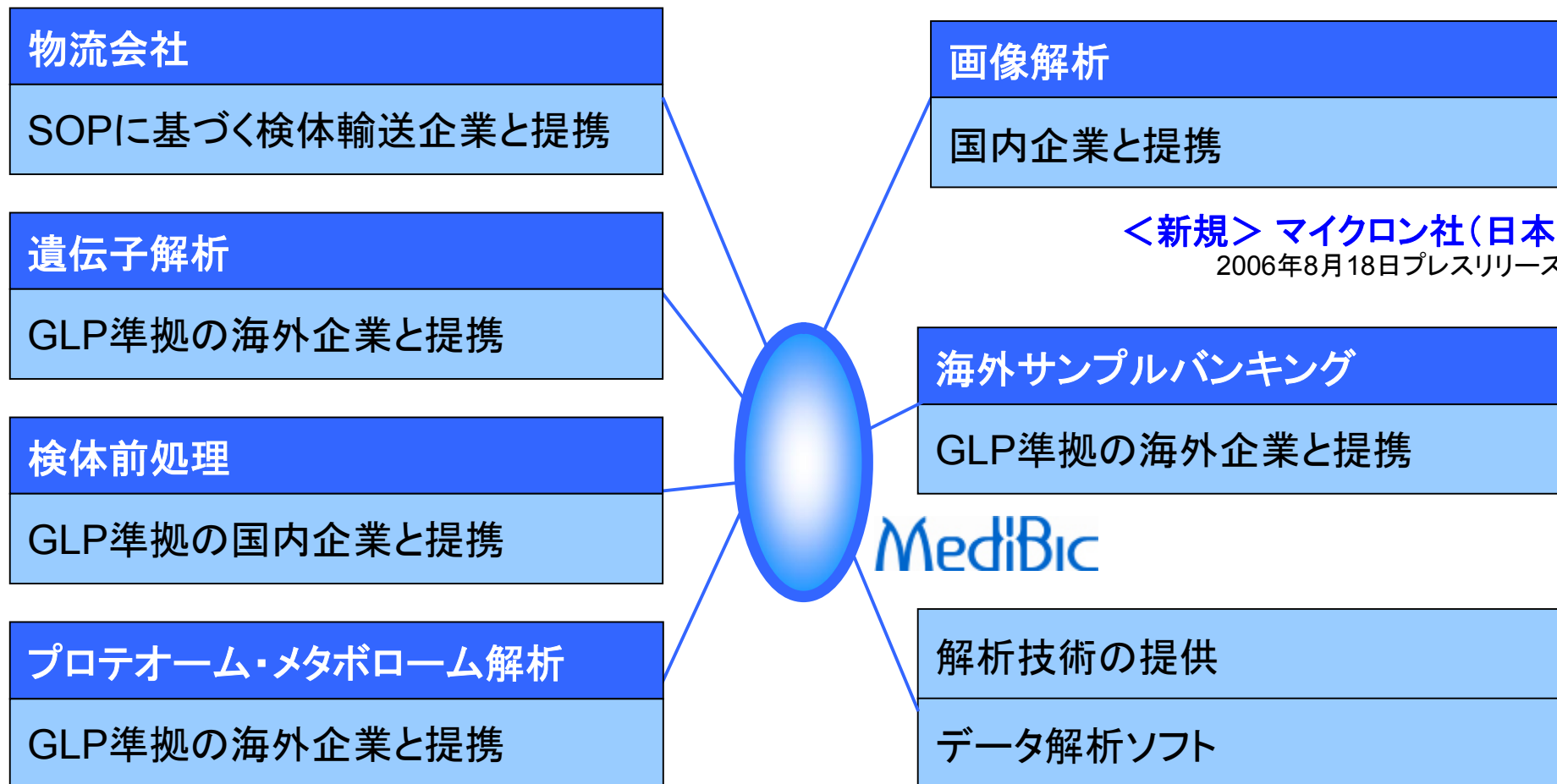
3- I -5. MediBicの検体マネジメントの特徴

サンプル集荷から DNA解析まで、全ての過程がGLP準拠

- ・ 治験検体の取り扱い経験豊富な輸送会社による国内外の検体輸送体制
- ・ 国内外の複数の施設でトラッキング可能なバーコードによる検体の一元管理
- ・ 当社独自の匿名化システムの提供
- ・ 独自の符番体系で検体の取り間違いを防止



3- I -6. PGxソリューションネットワークの確立

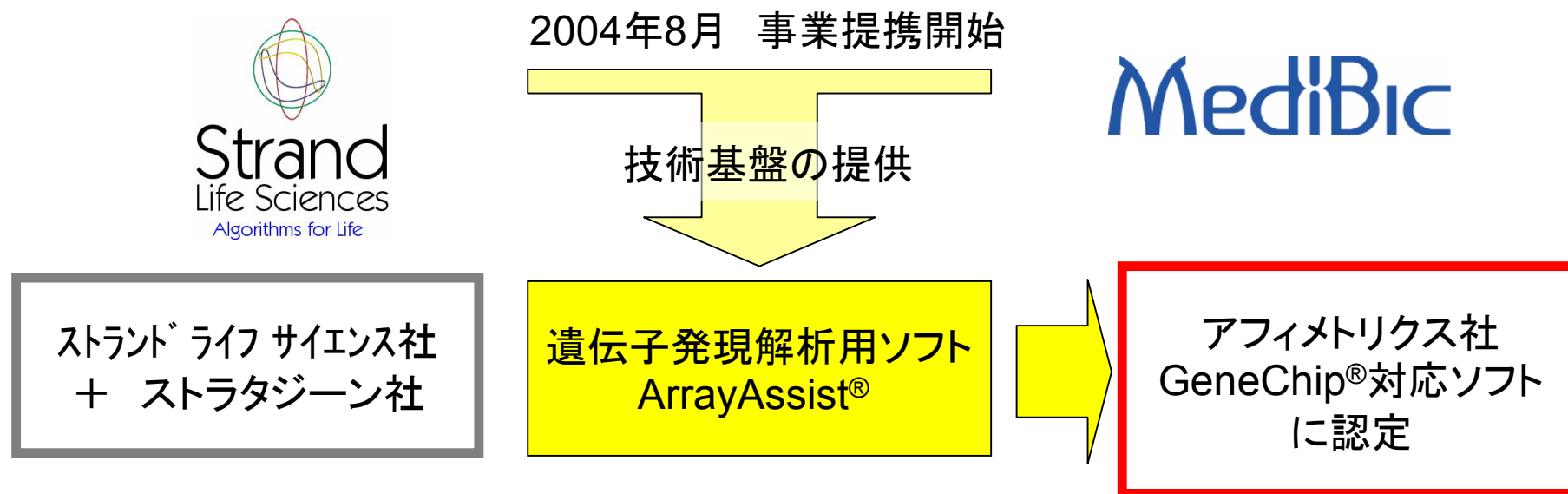


＜新規＞ マイクロン社(日本)
2006年8月18日プレスリリース

＜新規＞ リポミックス社(米国)
2006年6月16日プレスリリース

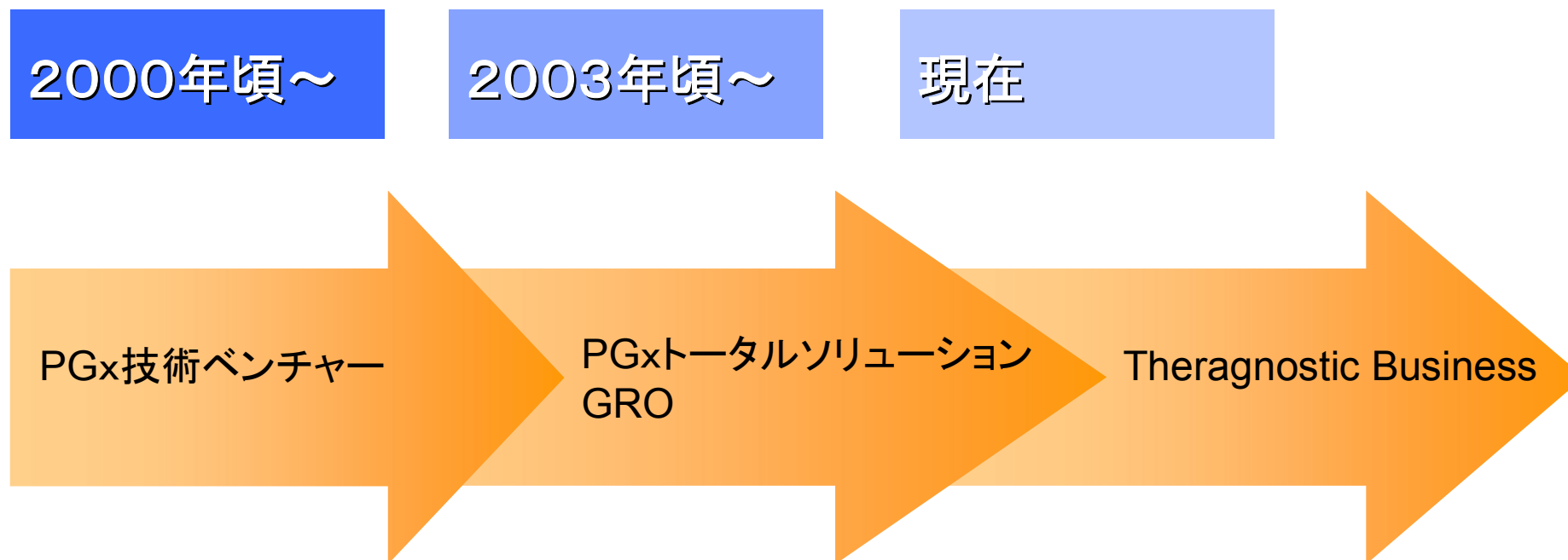
3- I -7. PGxソリューションに向けた遺伝子解析 ソフトの開発・販売 (グローバルな技術開発の成功例)

- アフィメトリクス社／ストラタジーン社と
共同プロモーション開始
- 解析ソフトの研究者へ本格販売と 大型研究への採用



※同様の企業連携により世界レベルで一層の利用が期待される新製品の開発も終了

3- I -8. 米国のPGxビジネスモデル



II. 創藥事業

3-Ⅱ-1. 創薬事業の進捗

2005年

グルフォスファミド (Glufosfamide)

- ・すい臓がんを対象とした抗がん剤
- ・米国で単剤による第Ⅲ相、併用治療による第Ⅰ／Ⅱ相臨床試験を実施中

メディビック

THLD社*

日本を含むアジア地域における抗がん剤グルフォスファミドの開発、販売を行うための共同開発開始

●国内治験戦略の設計合意

- ・メディビックとTHLD社の専門家からなる「共同開発委員会」で本剤の国内治験を設計

2006年～

●グルフォスファミドの国内臨床試験の準備を進める

- ・プロトコール立案(第Ⅰ相試験)
- ・臨床試験実施組織体制の確立
- ・臨床試験実施医療機関との契約締結

※THLD社=Threshold Pharmaceuticals,Inc(アメリカ)

3-Ⅱ-2. 創薬事業～グルフォスファミド開発の優位性

- 国内では臨床試験の初期段階だが、アメリカではすい臓がんを対象とした臨床試験は最終段階にあり、ある程度予測しやすい。(開発リスクが通常より低い)
- グルフォスファミドはFDA(米国食品医薬品局)からファストトラック(優先開発対象医薬品)の認定を受けている。
- すい臓がんは難治がんとされており、日本ではガイドライン上、第Ⅱ相臨床試験の成績で申請可能で開発コストを低減できる。
- 米国の臨床試験の結果を、申請資料に利用できる。

3-Ⅱ-3. 創薬事業～今後の展開

- リスクを少なく、効率的に事業を展開。
- グルフォスファミドに関しては、米国の第Ⅲ相臨床試験（PhaseⅢ）の状況を考慮しながら国内開発を進める。
- グルフォスファミドに関しては、アジア諸国へのライセンスアウトも視野に入れる。
- グルフォスファミドの開発進捗を見ながら、他のパイプラインの導入の検討を進める。

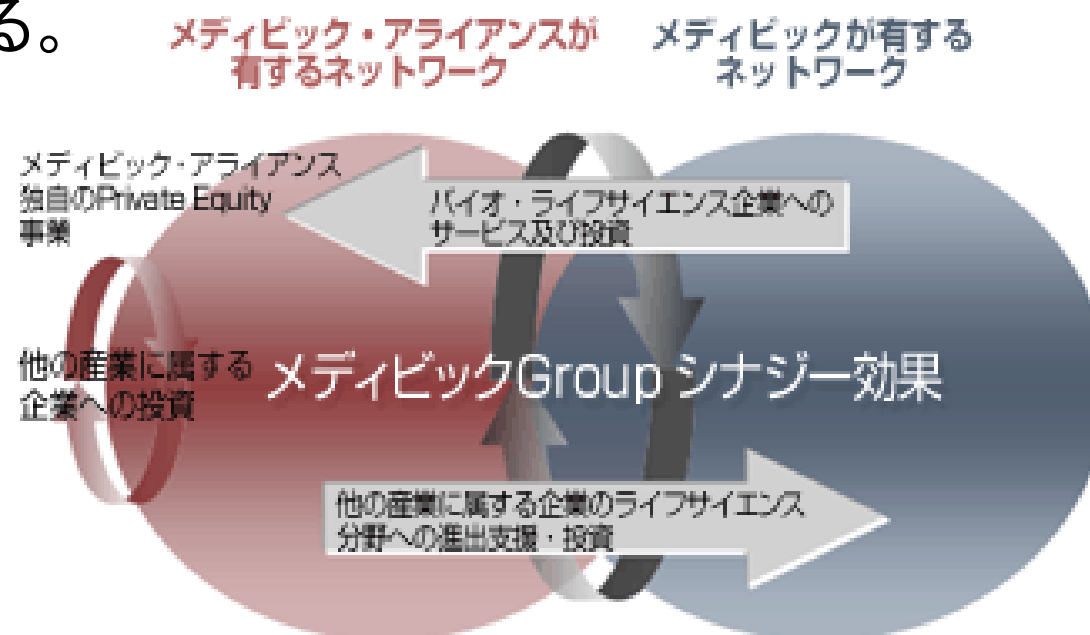
III. 投資・投資育成事業

3-Ⅲ-1. 投資・投資育成事業について

●子会社 (株)メディビック・アライアンスにて展開

●日本国内や成長著しい中国、韓国などのアジア市場において、ライフサイエンス企業を中心とした優良企業への投資・投資育成を行っている。

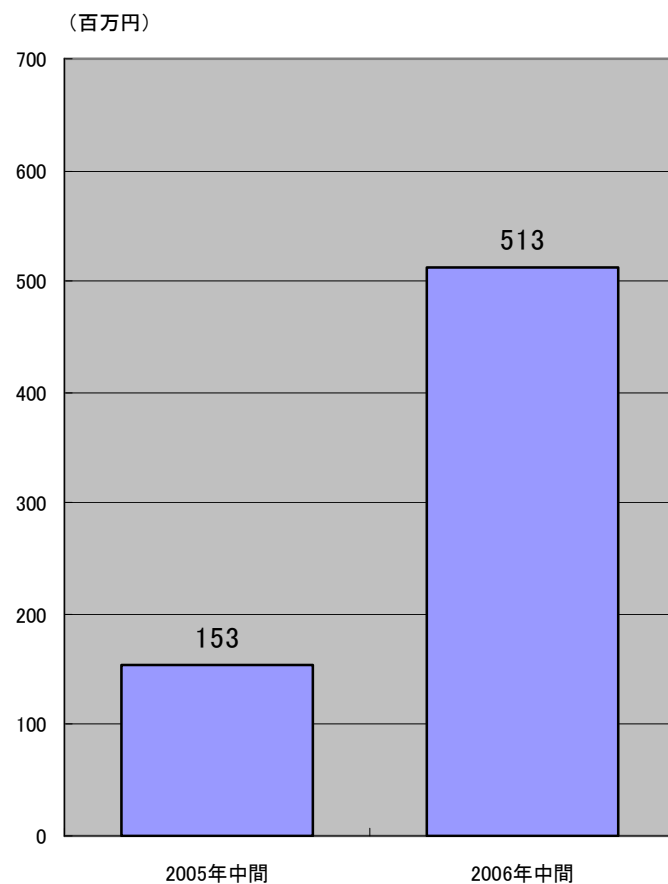
●各国のプレイヤーとの人的ネットワークを駆使し、少数精鋭で高い営業力を生み出している。



3-Ⅲ-2. 投資・投資育成事業の進捗

売上高 前期比較

- 投資・投資育成事業 -



2006年～

- 約20社の投資先に拡大
- 04年度投資先6件中3件の回収実績
 - ・投資先はKOSDAQ又はJASDAQに上場及びBuy-out
 - ・IRR(投資に対する収益率)平均140%の実績
- 韓国ファンド、中国ファンドを組成

主な投資先

【2004年】



株式会社ピクセン
香り/アロマ/消臭/芳香ビジネスで新市場創出を目指す。
■ <http://www.pixen.co.jp/>



株式会社リンフォテック
癌免疫療法(活性化リンパ球療法)による癌の再発防止を医療支援・研究開発により支援する。
■ <http://www.lymphotec.co.jp/> ※2006年6月売却



株式会社ファンドクリエーション
金融と他業界の融合をモットーにユニークなファンド開発や企業再生を手がける。
■ <http://www.fundcreation.co.jp/>



ハイクリップス株式会社
より効率的・確実な治験運用の提供を目指し新しいISMOとして発展。
■ <http://www.hyclips.co.jp/>



CrystalGenomics, Inc.
創薬及び創薬支援サービスの提供。
■ <http://crystalgenomics.com/> ※2006年1月6日KOSDAQ上場



コスモバイオ株式会社
研究用試薬、機器、臨床検査薬等の輸出入及び国内販売。
■ <http://www.cosmobio.co.jp/> ※2005年9月27日JASDAQ上場

【2005年】



エッジメディカルテクノロジー株式会社
医療現場の視点で、医療機器の輸出入・販売、コンサルティング等新しい医療ソリューションを提案。
■ <http://www.medsol.jp/>



キューオーエル株式会社
「個人の生活向上」を目指し、情報通信機器、システムの企画開発、コンテンツ作成等。
■ <http://www.qol21.com>



コアフロント株式会社
バイオマテリアル・光バイオ技術の応用製品開発を行い、先端医療用具メーカーとして未来の再生医療を担う。
■ <http://www.corefront.com/>



株式会社日本メディカル・パートナーズ
医療機関の再生と金融を融合化した様々な事業を展開(病院再生事業、メディカルファンド事業、ヘルスケア事業、医療機関コンサルティング事業)。
■ <http://www.nm-p.co.jp/>



株式会社アインテスラ
生活・環境関連分野における顧客ニーズに基づく新商品開発や半導体素材に関する企業からの研究開発受託事業を展開。
■ <http://www.eintesla.com/>



株式会社アースリソース
地中熱を利用した空調・給湯システムの開発、地中熱を利用した環境・省エネに関するコンサルティング。
■ <http://www.earthresources.co.jp/>



Bioheart Korea Inc.
心臓疾患を対象とした再生治療の開発を手がけるBioheart Inc.(アメリカ)のアジアにおける製造・開発拠点。
■ <http://www.bioheartkorea.com/> ※2006年9月14日KOSDAQ上場(予定)



WIDE Corporation
メディカル・ディスプレイを中心としたLCDディスプレイの開発・製造・販売。
■ <http://widecorp.co.kr/>

【2006年】



VALLIO TEK CO.,LTD.
MP3プレーヤーなど携帯マルチメディア機器の開発・販売。健康状態をチェックする計測機器等の開発も手がける。
■ <http://www.digital-genomics.co.kr/>



Digital Genomics Inc.
DNAチップの開発・販売、解析受託サービス、DNAチップ等の輸入・販売。
■ <http://www.digital-genomics.co.kr/>



株式会社メドジェル
再生医療をまじめする先端医療研究の実用化を目的として、先端医療向け材料の開発を行う。
■ <http://www.medgel.jp/>



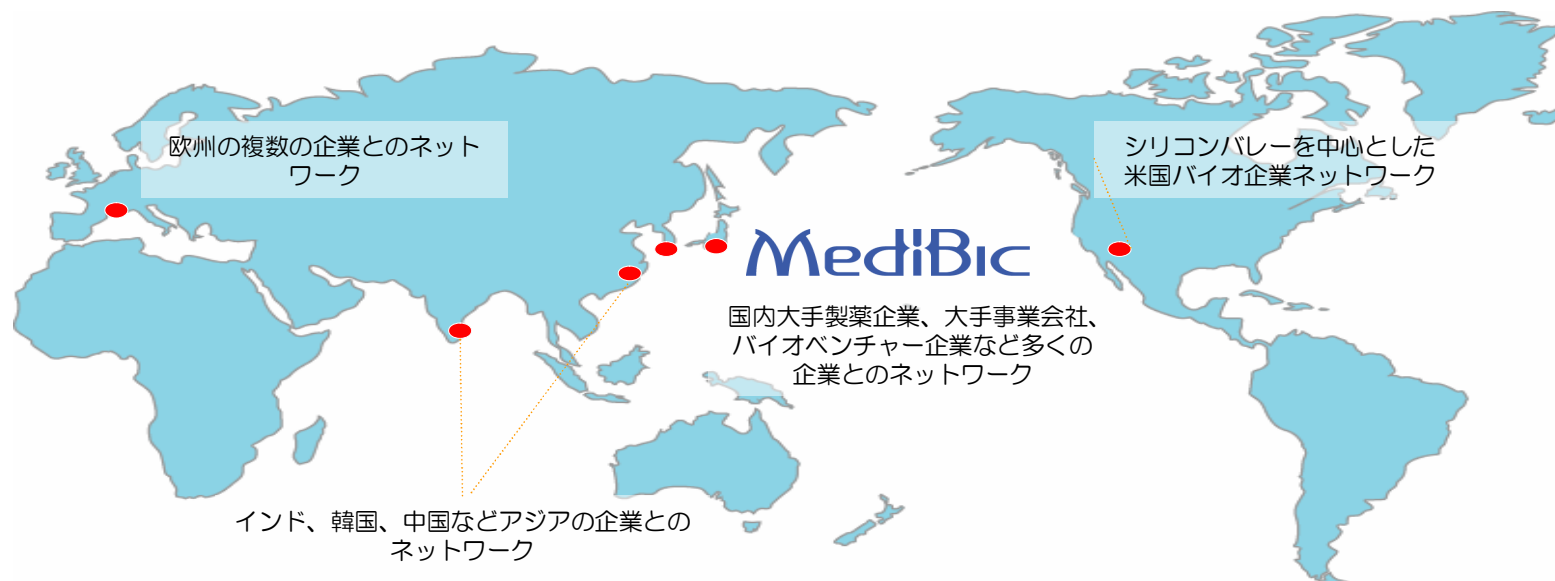
Acucela Inc.
眼科領域に特化した新薬の開発を行う。
■ <http://www.acucela.com/>

3-Ⅲ-3. 投資・投資育成事業～今後の展開

- アジアを中心とした高度成長地域企業に対する

医療関連マーケット形成支援

- 国内ライフサイエンス企業に対する投資育成と事業共同体の形成
- 中国・韓国を中心にライフサイエンス以外の分野への投資開始



中国・韓国の市場背景

中国市場

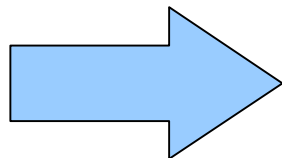
- (1) 欧米での成功者の中国還流
- (2) 米国NASDAQ、香港市場への上場増加
- (3) 中国国内でのGlobal 企業の増加傾向
(Domestic RuleからGlobal Ruleへ)

韓国市場

- (1) 韓国証券市場の活況(2005年度、アジア市場では韓国市場の成長率はトップ)
- (2) KOSDAQにおいては上場を積極的に支援する政策(2005年3月規制緩和等)
- (3) M&Aの増加基調に変化なし

メディビックアライアンスの強み

- ・各国のPrivate Equity Playerとの人的ネットワーク
- ・投資実績(クリスタル・ジェノミクス社・1月6日KOSDAQ上場)



強力なネットワークを利用し、中国・韓国エリアにおいてメディビックアライアンス及び同社の運営・管理するファンドを通じて積極的にプライベート・エクイティ業務を展開

4. 終わりに

4-1. 下期以降の予定

○ バイオマーカー創薬支援事業 (株)メディビック

- ～ 製薬企業に対するPGxトータルソリューションの提供
- ～ 情報処理システム アニュアルライセンス販売への移行が順調に推移
- ～ 2006年下期から2007年初めにかけて、情報処理に関する特許出願準備

○ 創薬事業 (株)メディビックファーマ

- ～ グルフォスファミドの開発(国内臨床試験開始へ)
- ～ 有望な新薬候補化合物の導入・開発を推進

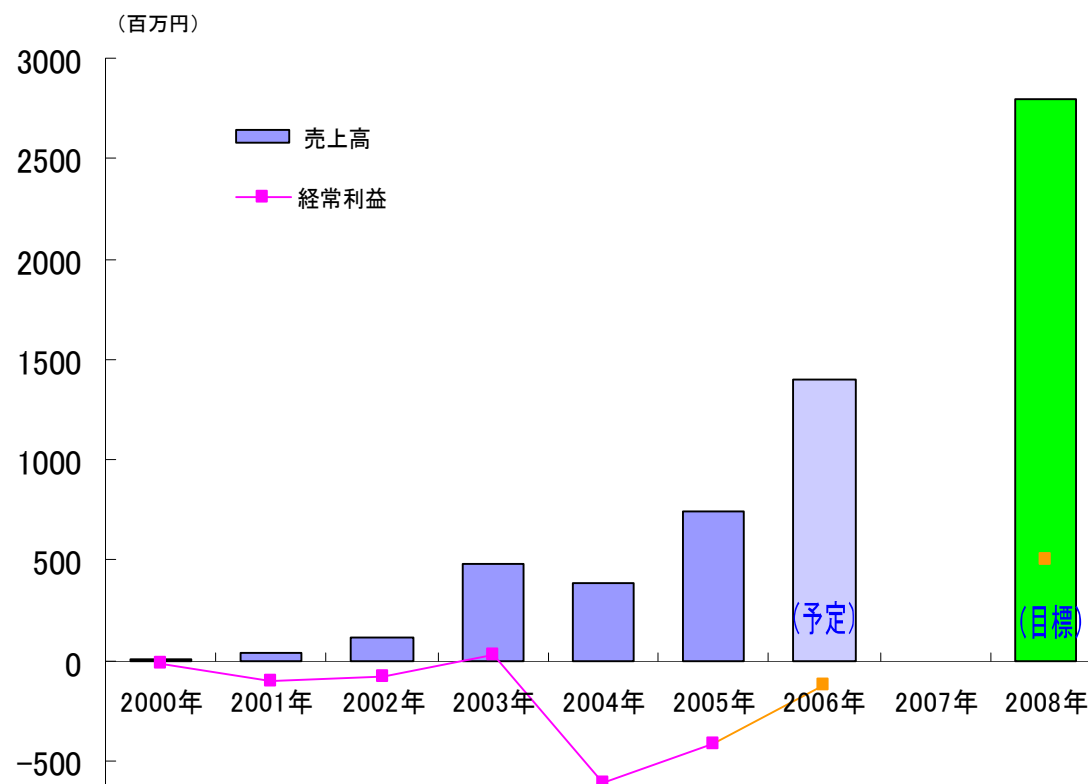
○ 投資・投資育成事業 (株)メディビック・アライアンス

- ～ 投資先企業のIPO or Buy-out(上期実績3社、下期予定2～3社)
- ～ 投資事業組合の運営規模拡大
(事業組合の設立50億～100億円目指す)

4-2. 中期経営計画(2006-2008年)

2006年1月発表

テーラーメイド医療の実現に向けて、最先端技術を用いた創薬・診断・治療法の確立及び支援を行う、リーディングカンパニーを目指す。



【目標】
2008年12月期

売上 28億円
経常利益 5億円

(連結)

株式会社メディビックグループ

www.medibic.com

- 2004年12月 2004年デロイトトウシュートマツアジア太平洋地域テクノロジーFast500 第20位
- 2004年09月 2004年デロイトトウシュートマツ日本テクノロジーFast50 第1位
- 2004年02月 2003年度創業ベンチャーフォーラム 経済産業大臣賞（起業家部門）
- 2004年02月 ダイヤモンド経営者倶楽部協議会2003年上場企業表彰
- 2004年01月 日本経済新聞社「2004年期待する新興企業」18位
- 2003年12月 日本経済新聞社「2003年ベストIPO」16位

◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。